

# プレゼンテーション

# プレゼンテーションの準備

- 講義のページにアップロードされている実施要綱の説明をよく読み、準備する
- プレゼンテーションスライドのテンプレートが準備されているので、それを用いること（Moodle）。ただし、プレゼンテーションの持ち時間は短いので、時間内に収まるように適宜要点を踏まえて、工夫したスライドを作ること。

# プレゼンテーションの内容(1)

- 実験の目的・概要
  - 実験の目的
  - どのような画像を識別するのか？
- どのようなデータを使用したのか？
- どのような特徴量を使用したのか？
- 特徴量の計算方法
  - アルゴリズムを説明
  - 聞いている人が、処理を理解できるように
    - 詳し過ぎても、簡単過ぎても、良くない
  - 何を工夫したのか？

# プレゼンテーションの内容(2)

- 実験結果

- 個々の特徴量(3通り)、及び、2次元での特徴量を使ったときの識別結果(3通り)
- 各実験について、基本的な方法(全てのデータを学習・認識に使用する方法)を用いた結果、10-Fold Cross Validationを適用した結果の比較
- グラフと表の両方を使い、具体的な結果を示す

# 1次元特徴空間における(誤)認識率評価の表のテンプレート1

表 1: 1次元特徴空間における実験結果 (平均値に基づく閾値)

(a) ALL			
	特徴量 1	特徴量 2	特徴量 3
認識率	xxx.x	xxx.x	xxx.x

  

(b) 10-fold CV			
回	特徴量 1	特徴量 2	特徴量 3
1	xxx.x	xxx.x	xxx.x
2	xxx.x	xxx.x	xxx.x
3	xxx.x	xxx.x	xxx.x
4	xxx.x	xxx.x	xxx.x
5	xxx.x	xxx.x	xxx.x
6	xxx.x	xxx.x	xxx.x
7	xxx.x	xxx.x	xxx.x
8	xxx.x	xxx.x	xxx.x
9	xxx.x	xxx.x	xxx.x
10	xxx.x	xxx.x	xxx.x
平均	xxx.x	xxx.x	xxx.x
標準偏差	xxx.x	xxx.x	xxx.x

表 2: 1次元特徴空間における実験結果 (出現確率が等しくなる閾値)

(a) ALL			
	特徴量 1	特徴量 2	特徴量 3
認識率	xxx.x	xxx.x	xxx.x

  

(b) 10-fold CV			
回	特徴量 1	特徴量 2	特徴量 3
1	xxx.x	xxx.x	xxx.x
2	xxx.x	xxx.x	xxx.x
3	xxx.x	xxx.x	xxx.x
4	xxx.x	xxx.x	xxx.x
5	xxx.x	xxx.x	xxx.x
6	xxx.x	xxx.x	xxx.x
7	xxx.x	xxx.x	xxx.x
8	xxx.x	xxx.x	xxx.x
9	xxx.x	xxx.x	xxx.x
10	xxx.x	xxx.x	xxx.x
平均	xxx.x	xxx.x	xxx.x
標準偏差	xxx.x	xxx.x	xxx.x

# 1次元特徴空間における(誤)認識率評価の表のテンプレート2

表 3: 1次元特徴空間における実験結果（誤認識率が等しくなる閾値）

(a) ALL

	特徴量 1	特徴量 2	特徴量 3
認識率	xxx.x	xxx.x	xxx.x

(b) 10-fold CV

回	特徴量 1	特徴量 2	特徴量 3
1	xxx.x	xxx.x	xxx.x
2	xxx.x	xxx.x	xxx.x
3	xxx.x	xxx.x	xxx.x
4	xxx.x	xxx.x	xxx.x
5	xxx.x	xxx.x	xxx.x
6	xxx.x	xxx.x	xxx.x
7	xxx.x	xxx.x	xxx.x
8	xxx.x	xxx.x	xxx.x
9	xxx.x	xxx.x	xxx.x
10	xxx.x	xxx.x	xxx.x
平均	xxx.x	xxx.x	xxx.x
標準偏差	xxx.x	xxx.x	xxx.x

表 4: 1次元特徴空間における実験結果（誤認識率が最小になる閾値）

(a) ALL

	特徴量 1	特徴量 2	特徴量 3
認識率	xxx.x	xxx.x	xxx.x

(b) 10-fold CV

回	特徴量 1	特徴量 2	特徴量 3
1	xxx.x	xxx.x	xxx.x
2	xxx.x	xxx.x	xxx.x
3	xxx.x	xxx.x	xxx.x
4	xxx.x	xxx.x	xxx.x
5	xxx.x	xxx.x	xxx.x
6	xxx.x	xxx.x	xxx.x
7	xxx.x	xxx.x	xxx.x
8	xxx.x	xxx.x	xxx.x
9	xxx.x	xxx.x	xxx.x
10	xxx.x	xxx.x	xxx.x
平均	xxx.x	xxx.x	xxx.x
標準偏差	xxx.x	xxx.x	xxx.x

## 1次元特徴空間における(誤)認識率評価の表のテンプレート3

表 5: 1次元特徴空間における実験結果のまとめ

閾値	特徴量 1		特徴量 2		特徴量 3	
	ALL	CV	ALL	CV	ALL	CV
平均値に基づく閾値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
出現確率が等しくなる閾値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
誤認識率が等しくなる閾値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
誤認識率が最小になる閾値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

# 2次元特徴空間における(誤)認識率評価の表のテンプレート1

表 6: 2次元特徴空間における実験結果 (分散同一正規分布)

(a) ALL

	特徴量 1 と特徴量 2	特徴量 2 と特徴量 3	特徴量 3 と特徴量 1
認識率	xxx.x	xxx.x	xxx.x

(b) 10-fold CV

回	特徴量 1 と特徴量 2	特徴量 2 と特徴量 3	特徴量 3 と特徴量 1
1	xxx.x	xxx.x	xxx.x
2	xxx.x	xxx.x	xxx.x
3	xxx.x	xxx.x	xxx.x
4	xxx.x	xxx.x	xxx.x
5	xxx.x	xxx.x	xxx.x
6	xxx.x	xxx.x	xxx.x
7	xxx.x	xxx.x	xxx.x
8	xxx.x	xxx.x	xxx.x
9	xxx.x	xxx.x	xxx.x
10	xxx.x	xxx.x	xxx.x
平均	xxx.x	xxx.x	xxx.x
標準偏差	xxx.x	xxx.x	xxx.x

表 7: 2次元特徴空間における実験結果 (異なる分散正規分布)

(a) ALL

	特徴量 1 と特徴量 2	特徴量 2 と特徴量 3	特徴量 3 と特徴量 1
認識率	xxx.x	xxx.x	xxx.x

(b) 10-fold CV

回	特徴量 1 と特徴量 2	特徴量 2 と特徴量 3	特徴量 3 と特徴量 1
1	xxx.x	xxx.x	xxx.x
2	xxx.x	xxx.x	xxx.x
3	xxx.x	xxx.x	xxx.x
4	xxx.x	xxx.x	xxx.x
5	xxx.x	xxx.x	xxx.x
6	xxx.x	xxx.x	xxx.x
7	xxx.x	xxx.x	xxx.x
8	xxx.x	xxx.x	xxx.x
9	xxx.x	xxx.x	xxx.x
10	xxx.x	xxx.x	xxx.x
平均	xxx.x	xxx.x	xxx.x
標準偏差	xxx.x	xxx.x	xxx.x

## 2次元特徴空間における(誤)認識率評価の表のテンプレート2

表 8: 2次元特徴空間における実験結果 (一般的な正規分布)

(a) ALL

	特徴量 1 と特徴量 2	特徴量 2 と特徴量 3	特徴量 3 と特徴量 1
認識率	xxx.x	xxx.x	xxx.x

(b) 10-fold CV

回	特徴量 1 と特徴量 2	特徴量 2 と特徴量 3	特徴量 3 と特徴量 1
1	xxx.x	xxx.x	xxx.x
2	xxx.x	xxx.x	xxx.x
3	xxx.x	xxx.x	xxx.x
4	xxx.x	xxx.x	xxx.x
5	xxx.x	xxx.x	xxx.x
6	xxx.x	xxx.x	xxx.x
7	xxx.x	xxx.x	xxx.x
8	xxx.x	xxx.x	xxx.x
9	xxx.x	xxx.x	xxx.x
10	xxx.x	xxx.x	xxx.x
平均	xxx.x	xxx.x	xxx.x
標準偏差	xxx.x	xxx.x	xxx.x

## 2次元特徴空間における(誤)認識率評価の表のテンプレート3

表 9: 2次元特徴空間における実験結果のまとめ

分布の仮定	特徴量 1 と特徴量 2		特徴量 2 と特徴量 3		特徴量 3 と特徴量 1	
	ALL	CV	ALL	CV	ALL	CV
分散同一正規分布	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
異なる分散正規分布	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
一般的な正規分布	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

# プレゼンテーションの内容(3)

- 考察

- 複数の方法のうち、どの方法がうまくいったか？  
その理由
- 特徴量の計算や全体での識別がうまくいかなかったら、その理由
- どのようにしたら解決できるか？
- 実験結果の精度に関する考察(基本的な方法、10-Fold Cross Validationの結果の違い)

# グループでのプレゼンテーション

- 2人で一緒に、プレゼンテーションの準備・発表を行う。
- プレゼンテーションは、途中で発表者を交代しながら、一緒に発表すること。
  - それぞれが説明する分量は大体同程度になるようにすること。
- それぞれ、自分が作成した特徴量やその実験結果は、自分で発表をする。それ以外の部分は、適当に分担をして発表をする。

# プレゼンテーションの注意

- 発表時間は厳守
  - 一般に、持ち時間をオーバーするのは、非常に悪い行為(仕事のプレゼンや就職活動等でも)
- 十分に練習をすること
  - 説明がしどろもどろでは、たとえ内容は良くとも、聞く人に伝わらず、印象も悪くなる
  - できるだけ早く完成させる
- アルゴリズムの説明などには、必ず、適切な図を使うこと
  - 文字や口頭の説明だけでは伝わらない

# プレゼンテーション提出

- 以下の2つを提出
  - プレゼンテーションスライド
  - 自分の作成したプログラム＋画像データ一式
- Moodleから提出
  - 6週目のプレゼンテーション前に提出
  - 提出締め切り **金曜日 12:20（厳守）**
- 提出したプレゼンテーションスライドを使って発表を行う

# ディスカッション

- 全プレゼンテーション終了後、プレゼン内容に関して30分程度、下記の項目に関して、同じ文字を使用したチームのグループ毎にディスカッションを行う。

後で代表者が纏めて全体に報告。

- 1.他のチームとの特徴量や認識精度の比較
- 2.認識率の高低の原因と対策案
- 3.識別のための他の特徴量の提案

# レポート

- プレゼンテーション・ディスカッションを踏まえて、レポートを作成し、Moodleで提出する。提出期限はプレゼンテーション後1週間後の金曜日12:00。
- レポートにはテンプレートがあるので、それに従って、作成する。